

法匠会報

法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

第33号 2000年4月30日

発行所 〒184-8584
東京都小金井市梶野町3-7-2
振替口座 1-89264
TEL・FAX (0423) 87-6385
法政大学工学部建築学科同窓会
発行人 鬼木 猛
編集人 会報編集委員会

新工学部長になった...

後藤剛史先生に聞きました

工学部長就任おめでとうございます。

ありがとうございます。建築学科卒業生として最初のそしてミレニアム学部長ということで、身の引き締まる思いです。

今後二年間の任期中大きな課題は何でしょうか。

先々代、先代の学部長に比べれば、切迫したほどの課題は無いと思います。しかし、小金井キャンパスの再開発を具体的な計画に乗せることは時間的に余裕のある話ではないと思います。また、学生の出口（卒業時）での質が問われるようになってきていますので、それに応えられるような教学体制を如何に構築して行くかが大きな課題かと思えます。

西館ができて小金井もずいぶんかわりました。

小金井キャンパス内に今年から情報科学部という新しい学部が加わり、二学部体制となりました。そのような影響もあってか、受験生の減少もほとんどなく特に建築学科の人気は堅調に推移しています。

世界中が科学技術の進歩で大変革の最中ですが、工学部はこれからどう対処してゆくのですか。

ご質問は建築よりはもっと広い意味での技術と理解します。IT (Information Technology)が話題になっているようですが、これを限定した専門領域で対処するのではなく、その周辺のインフラを含め、さらには文系にまで及ぶような対処が必要となるでしょう。それからもう一点、限られた地球資源、環境を我々の世代で消費しきらず次世代以降に引き継ぐためには、バランス感覚を身につけた人間性



後藤剛史先生

1966年 法政大学工学部建築学科卒業
1976年 工学博士
1984年 工学部教授

溢れる技術者の育成を目指さなければならぬと考えています。

工学部の現状はいかがですか。

全学科に共通して、若くて優秀な人材（教員）が多くそうようになり、学内の雰囲気も好ましく、頼もしい限りです。学生に関しても将来が期待できるような印象で日々接しております。

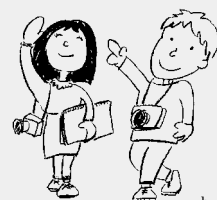
建築同窓会は教室と連携した活動など活発ですが、同窓会に一言。

ご多忙にもかかわらず、いつも教室を向いてのご活動、ご協力に教室スタッフ一同心より感謝致しております。そうした活動を揺るぎないものにするためにも、同窓生みなさんが義務感で同窓会に参加するのではなく、自ら楽しんでいただく組織になって頂きたいと思えます。後に続く後輩たちが是非とも参加したいと思えるように...

第10回 ウォークラリーのお知らせ

初夏の1日、東京の街歩きを楽しみませんか

卒業生の引率者を募集



by Shigeyoshi Hukushima

5月27日(土)1:00 各地点集合

今年のウォークラリーは、174名の新入生を迎えて例年どうり行われます。出発地点は、千駄ヶ谷、お茶の水、東京、上野、代官山、表参道の6箇所、新入生3人を1チームとして、約50のチームが、思い思いのコースをたどって市ヶ谷校舎を目指します。各チームを卒業生が引率。その間先輩とし都市・建築の見学とともにアドバイスなど会話をします。

集合ののち市ヶ谷校舎の教職員食堂で懇親会が予定されています。

引率には50人の卒業生の協力が必要です。参加希望者は下記へ御連絡下さい。

ウォークラリー事務局（南風舎）

電話 03-3294-9341

FAX 03-3294-7386

第3回「法匠展・50」作品募集

昨年の第2回展には、31名が参加して、多彩な作品が会場を埋めました。内容も油絵、水彩画、写真、スケッチ、陶芸など多種多様です。全員での展示作業、オープニングのパーティなどとても楽しい時間を共有、愉快地、有意義に1週間をすごしました。

今回も縦横の交流が生まれることでしょう。新たな出会いの楽しみがあなたを待っています。

作品搬入：5月25日（木）夕刻パーティ

会期：5月26日（金）～5月30日（火）

場所：JR三鷹駅前武蔵野芸能劇場2階小ホール

参加費：10,000円

参加希望者は、下記へ御連絡ください。詳しい「案内書」をお送りします。

連絡先：宮之原嘉明 電話3379-7871

会費納入は自動払込みで

「法匠会報」は皆さまの納める会費で作られます。会費納入に御協力下さい。

同窓会費は年3,000円郵便振込みで納入いただいております。なお自動払込みの方法も設けてありますのでご利用下さい。

1：郵便貯金通帳のある方

郵便局窓口で「自動振込利用申込書」をお持ちの通帳の口座番号、住所、氏名をご記入捺印の上、窓口に出していただくだけで、簡単に手続きは済みます。

2：郵便貯金通帳のない方

郵便局の窓口で通帳をおつくりいただき、前

記1の手続きをしてください。

3：それ以外の方

いつも送られてくる払込取扱票（手数料なし）にてお願い致します。その他は郵便局にて振込用紙にご記入いただき下記の宛名と口座番号を書き込み手続きのご協力お願いいたします。

口座番号：00110-5-89264

加入者名：法政大学工学部同窓会

住所：東京都小金井市梶野町3-7-2

同窓会事務局 電話 042-387-6385

宮脇ゼミのデザインサーベイ インターネットで公開へ

師 宮脇檀の死からすでに1年半がすぎ
て行き、その間で色々な動きがあり、我々
宮脇ゼミとしての報告をいたします。

一昨年12月12日に忍び会の際に、様々な
思い出話の中から、法政大学宮脇ゼミとし
て在学中に行った“デザインサーベイ”の
事が話題に上りました。

当時講師として法政大学建築学科で教鞭
をとった師は10年間で99名のゼミ生を育
て、中でも1966年から1972年の間で、9ヶ
所の実測調査は、建築を学ぶ未熟者のゼミ
生にとって楽しい体験や思い出とともに、
貴重な資料の蓄積を残して下さいました。

それらの幾つかの箇所は報告書や建築雑
誌にまとめられていますが、このままでは
師亡き後散逸しそうであった事や、30年経
ったそれぞれの実測値が今どのようになって
いるかの興味と、学生時代とは違い、仕
事をしている今の目をおして再びまとめ
直しておきたいと思い作業を1年近く進め
てきました。

ただ整理し保管するだけでなく、現在の
当地がどのように変貌してきたかを見つめ
直し、これからの都市空間のあるべき方向
を探るための一資料になれば嬉しく、また
これらの資料が、多くの次世代の建築を学
ぶ人達（広く世界に向けて）に開かれるよ
うに、現在ゼミ生の中で、小島、清瀬、高
尾、富田、山本で、以下の事を進めており
ます。

1、現在資料の確認とホームページ化す



ること。

倉敷（川、掘）馬籠（峠、宿）萩（武家
屋敷）五箇荘（掘、郷）金比羅宮（山道、
坂）稗田（環濠）室津（漁村）篠山（河
原町）平福（佐用町）

2、上記資料を核として当地の新たな変
貌を順次追加。

3、同時代の他校の調査資料等、このホ
ームページ上でリンクできるように公開
の働きかけをしている。（賛同者あり）

4、世界中の様々な分野の人々のアクセ
スから都市空間を考える資料になるよう
努力。

5、学業を離れ30年近く経っているゼミ
生の頭の体操に。

以上の事柄を99年暮れに約30名のゼミ生
で、再確認と50%近くの完成の報告とこの
作業を続けることが育ててもらった宮脇氏
への恩返しになればと思っております。

（99名ゼミ生一同）

同窓会活動 いろいろ

建築同窓会 新年会挙行

2000年の年頭を飾る新年会が2月4日（金）
高輪プリンスホテルで行われた。大勢の先
生方と94名の卒業生を迎えて談笑の花が咲
いた。高齢化が危惧されている同窓会だが、
若い活動家の参加も見られ、にぎやかな新
年会となった。（実行委員長 鈴木 統）

常任理事会

4月21日（金）校友会館にて本年度第一
回の常任理事会が行われた。新年度の予算
と活動方針のほか、法匠セミナーの改革、
「法匠会報」の刷新などが討議され、決定
した。会費納入状況は依然深刻な状況にあ
り、納入促進のため努力することになった。
会員諸君のご理解ご協力を期待したい。

新校舎見学会

小金井キャンパス西館

前面道路に平行に建設された西館を、2
月26日10名の参加で、施工の前田建設の柿
澤君（1983年卒）の案内で見学。

新設の情報科学科が入る校舎のため、全

館にIT設備が施されている。教室はもちろん、
ラウンジにもインターネットに接続で
きる端子が多数装備されたハイテク校舎。

市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー

創立120年記念事業として大学院跡に建
設された超高層校舎。大成建設の鈴木統君
（1982年卒）の案内で見学。最上階には国
際会議場、以下研究室、教養課程の教室、
低層部には学生食堂などが入る。法政大学
の新たなシンボルとなる。

大成建設
東京 東京都港区赤坂1-25-1
http://www.tac.co.jp/

地図に残る仕事。

たるき

■「法匠会報」を大幅に模様
替えをした。1番大きな変更
点は判型の変更。タブロイド
判からA4判へ。手軽さと保

存性を重視。次に横組み。ホームペー
ジのアドレスが縦組みになじまない等、多
くの人が横組みに親近感を感じるようにな
ってきた。そして、増ページ。4頁から
8頁へ。文字数はあまり変わらないが、多
様な紙面造りができる。

■この号からいくつかの新企画がスター
トしているが、今後も皆さんから要望が
あればどんどん変更していきたい。

■真ん中の特集、今回は「まちづくり」。
多くの人がまちづくりに関わっているの
に驚いた。そこで感じたこと、「まちづく
りは都市計画ではない」ということ。「あ
んまり物を作らないのが街づくり」とい
う山形の福島君。桶川の森田君は個人新
聞の編集後記に「緑がまぶしい季節にな
り、末娘の飼う生き物がいつのまにか増
えている。現在、タナゴ6匹、よしのぼり
という小さな魚1匹、ざりがに1匹が」と
ほほえましい家族の近況。

■それぞれが自分スタイル。これが「ま
ちづくり」の方法なのかも。今後も紹介
してゆきたい。

■次号は11月発行。その特集は「MY
HOUSE」自分で設計したり、作ったユニ
ークな自宅を教えてください。

人いろいろ

陣内秀信先生が建築史学会賞

1999年度建築史学会賞に陣内先生が「中
国北京の都市空間の形成に関する歴史的研
究」で受賞した。この研究は1988年卒の高
村雅彦君との共同作業である。その内容は
『北京 都市空間を読む』（鹿島出版会）に
まとまっている。高村君は7面で紹介した
『中国の都市空間を読む』も書いている。

谷沢明君が博士号を取得

1973年卒の谷沢明君が、以前より研究を
続けてきた「瀬戸内海の町並み」の研究で
法政大学で博士号を取得した。古い町並み
をことごとく踏査する精力的な研究でいま
や町並み研究の第一人者である。現在愛知
淑徳大学教授。

大成建設
東京 東京都港区赤坂1-25-1
http://www.tac.co.jp/



お元気ですか

中山 繁信 君

中山君は卒業設計「LOTUS ON THE SEA」で最優秀賞を獲得して注目を集めた。卒業後は宮脇先生のデザインサーベイの先導者、そして川治温泉駅コンペを征し、四ツ谷駅前に積木のような交番をつくるなど次々に話題を提供してくれた。昨年は『ワンダリング・カトマンズ』今年は『現代に生きる「境内空間の再発見」』と立て続けに著書を出版。そしてこの度工学院大学の教授に就任した。

今度『現代に生きる「境内空間」の再発見』という本が出ました。日本の古くくれた空間を取り上げています。未来都市のような卒業設計の印象から随分差があります。

あれは現実を知らないで丹下さん達のヴィジョンに乗って描いただけなんです。

卒業して宮脇さんのデザインサーベイに係わって日本の典型的な集落、倉敷や馬籠に入り込んで実測をやったんです。ちょうど日本の高度成長期で古い集落にどんどん新しいものが入って、古いものが壊れていく時代だったんです。囲炉裏を壊して、応接セットが入るとか、古いシステムがほころんでいくわけです。ぼくらはそのほころびを見たくないわけです。

その頃から「境内空間」に興味をもっていたんです。

日本中でのすごい勢いで開発という破壊が進んでいたんです。ところが、車窓か



「五番幹」ビル（成田市2000年）

サーベイには6～7年にわたって全部で5ヶ所ほど参加したんです。古い集落へ入るといろいろ教わることがあるんです。こちらでもサーベイの目的をちゃんと理論化して説明し、十分に理解してもらわないと受け入れてもらえない。中に入ると集落の構造はもちろんですが、共同体の原理を体験するわけです。

建築家として学んだことは？

身体で空間を学んだ。サーベイの結果できた実測図はあまり興味ないんです。その過程に意味があると思うんですよ。

こんどは工学院大学の教授になったという



住ノ井建設本社（東京都葛飾区1990年）

ら見てみると、その中にぼつんと緑が残っていたりする。それが神社や祠なんです。それが痛快だったんですよね。宗教的な空間が経済効率万能の破壊に対して抑止力をもっていたわけですよ。

そのころから、そういう写真を撮っていたんです。こんど本には30年前の写真も入っています。

宮脇さんのデザインサーベイから学んだことは多かったのですか。

中央線の高架化でまちづくりサミットへ

永瀬克己（1968年卒・法政大学・小金井市）

21世紀、武蔵野の背骨が盛り上がってくる。中央線の高架化である。万里の長城のような巨大なコンクリートの帯が雑木林の高さを越えて西にはしる。これまで見えていた夕映えの富士も太い直線で遮られることも。

三鷹から立川までの6市13.1km、武蔵境、東小金井、武蔵小金井、国立の4駅が新駅になる。

18箇所の踏切がなくなり、20箇所以上の南北道路が交差することに。分断されていた南北の街は、一体化へと向かう。



略歴

1966年 法政大学工学部建築学科卒
1971年 大学院修士課程修了
1977年 中山繁信設計室（現TESS計画研究所）開設
2000年 工学院大学建築学科教授

主な著書

『日本人のすまい』（共著、彰国社）
『すまいの火と水』（共著、彰国社）
『WANDERING KATHMANDU』（共著、建築知識）
『現代に生きる「境内空間」の再発見』（彰国社）

ことですが。

以前に伊藤ていじ先生の助手をしていたことがあり、講師も続けていました。工学院には日常業務に拘束されない教授というポストがあるんですよ。学校ではベーシックデザインや設計製図を見ることになりませんが、やはり学生には建築家の初心を伝えたいですね。今後も大学で教えながら自由に設計や遊びもやります。

街にとっては100年に一度の大事業である。黙っていたら個性のない駅や高架が立ち上がってくる。大きなモノはそれだけまちづくりへの影響も大きい。6市を貫く関係自治体の長は、これをどのように考えるのか。それを聞きたい。

市民レベルからの提起は、『サミット』である。6市の市長とJR、東京都の関係者が一同に会してこの事業をきっかけとした「まちづくり」について話し合うことである。

題して「グリーン・ネックレス構想」である。

このサミットの呼び掛けに各市長は応じてくれた。2000年5月27日（土）国分寺Lホールに会する。

人と技術のネットワーク リフォーム業界最大手

ANON

HUMAN & TECHNICAL NETWORKS

建築統括本部長 服部 陸郎（1964年卒）

株式会社 アノン

東京都港区浜松町 2-7-2 秀和第2浜松町ビル TEL 03-5425-2511

一級建築士事務所
株式会社 フィネス

代表取締役社長

佐々木 隆夫

日本建築家協会会員 一級建築士
（1967年卒）

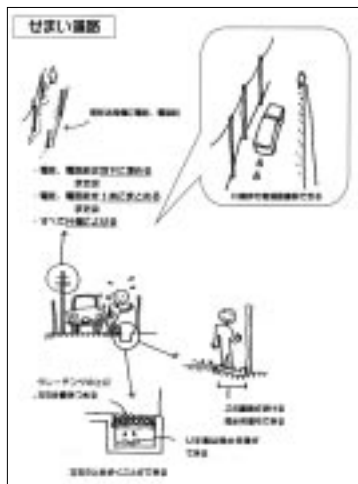
170-0003 東京都豊島区駒込1丁目35番1号
tel 03-5977-0977 fax 03-5977-0911

特集 まちづくり いろいろ

物を作らない まちづくり

福島茂良（1981年卒・ライブ設計・山形市）

ボクらがやっているまちづくりを市の会議で発表することになった。そこは景観に関する会議場。数人の先生が建物の景観、基準、看板は、あだこうだ。そんな中、ボクらが発表するのは「あんまり物を作らないのがまちづくり」みたいなこと。ボくらというのは米屋さん床屋さん他にいろんな人。ボクは聴講生みたいなもの。住んでるのは400年も街の配置が変わらないところ。400年も変わらないのだから変えないほうが良い。景観条例は上から押しつけるものではなく、住む人が考えるもの。まわりに配慮し、ちょっとだけ変化したものを作っていく。そういう環境になればとのまちづくり。数年間の勉強会をとりあえずまとめた。道・堰・構築物・草木花がテーマ。ヤゴ、魚、彼岸の掃除、駐車場のやりくり等



『みんなで考えたまち「こうなればいいなあ」
寺町地区のまちづくりを考える会発行より
暫定版』

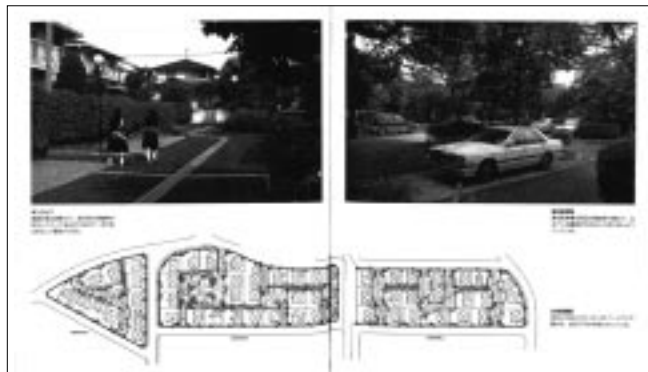
なんでも話題にのる。発表の後、先生の一人から「後、400年、みなさん長生きして下さい」と言われた。みんな誉められたと思ひながら帰ってきた。そういうまちづくり。

宮脇さんの住宅地計画をまとめました

二瓶正史（1979年卒、アーバンセクション・渋谷区）

『コモンで街をつくる（宮脇檀の住宅地設計）』という本をつくりました。この本は1977年から宮脇の他界した1998年までのほぼ20年間に宮脇檀建築研究室で行った住宅地設計について解説した本です。

特に代表的と思われる15の住宅地について



『コモンで街をつくる—宮脇檀の住宅地設計』宮脇檀建築研究室編・丸善プラネット発行・B5判変形・226頁・3800円

自転車による まちづくり

山崎勝哉（1966年卒・相互コンサル・浦安市）

私が住む浦安市は、東京都に隣接した約四キロ四方の平坦な街で、市域の周囲は八割が海や川の水辺に囲まれています。

昨年の12月、浦安市は建設省から「自転車利用環境モデル都市」に指定されました。このモデル都市は、全国の市町村を対象に公募で選ばれたもので、日常的な交通手段としてニーズが高く自動車などに比べ環境にやさしい自転車利用を促進することが目的です。

現在私は、市内にある3つの駅前に集中・放置される自転車の対策協議会に参加しており



ますが、そんな縁で、公募の提案づくりの手伝い等も行っています。

その中で特徴的なのは、水辺のサイクリング道路の整備と併せて、無人のサイクルポートを市内に点在する公園や公共施設、道路脇、

紙面刷新を機会に特集として「まちづくり」に関わって活動している人たちに書いていただきました。集めてみて驚いたのは「まちづくり」に関わっている人が非常に多いということ、しかもそのスタイルが実に多様だということです。一人から始めて大きな連帯へ、楽しさが伝わってきます。今後も続けたいと思います。どんどん情報をお寄せ下さい。

文京たてもの応援団 奮闘記 その1

岩本毅幸（1980年卒・フラクタルデザイン・文京区）

文京たてもの応援団（文京歴史的建物の活用を考える会）は、3年前、文京区千駄木の旧安田邸（現在、財：ナショナルトラスト所有）の保存活用がきっかけとなって地元や周辺の



有志が集まってつくった会である。私も安田邸の近くに住んでいたことから、見学会をきっかけに参加し、現在に至っている。なかなか楽しく個性豊かな集団である。街歩きや、建物の調査、記録を通して、どうにかして歴史的な建物を活かし、それを拠点にまちづくりをしようというものである。

最近、特に感じるのは「まちづくり」という言葉を市民が口にするようになり、専門家の方法を超える事もしばしば目にする。我々のすべき事は、リーダーシップを発揮するよりも、市民と行政、専門家といったさまざまなジャンルの間にある垣根を取り払うことである。

現在、旧安田邸前の保険所通りの改修（コミュニティ道路づくり）の委員をやっている。

店先など市内の至るところに整備し、コインやカードを使って、誰でもいつでも市内のどこでも、多目的に利用できる乗り捨て可能なレンタサイクルの提案です。空港やショッピングセンターのカーポートを市街地に拡大させた方式で、自転車を有料ないし無料で手軽に共有利用できる試みです。

自転車利用はヨーロッパの各国で盛んで、例えばデンマークのコペンハーゲンやオランダのアムステルダム、ドイツのミュンヘン、ノルウェーのトロンハイム等には、先進的なレンタサイクルが見られます。

そのような先進事例を参考にして、自転車による生活文化を築いていけるまちづくりを目指し、現在その実現に向けた検討作業を市から委託され現在進めているところです。

個人新聞で始めた まちづくり運動

森田克己（1976年卒・住環境研究室・住景舎・桶川市）

6年前から『住景』という非営利のミニコミ紙を埼玉県を中心に100部ほど発行している。A4版6～8頁の手作りで、現在第10号（特集「公共意識と共同意識」）を編集集中。今までに「自然環境」「市民参加。デザイン」などの特集を中心に市民参加のまちづくりの方法を模索するのが主な内容だが、人との出会いをきっかけに手渡したり、御送りにしたりしている。

一方的な発信であってもその反応はなかなか興味深く、6年間に桶川市の都市計画マスタープラン、住宅供給計画等に関わり、市民参加のデザインに成果をあげることができた。県内の情報交換もできるようになり、地域に根を張った活動が住環境を豊かにすることを実感している。ゆったりとこの木の葉が世界に広がっていくのを楽しみたい。

「まちは住んでいる人以上に美しくはならない。」のも事実だが、様々な人達と会うと「住んでいる人はみな美しい」ということにも今さらながら気がつかれる。

大久保発「地域の国際化とまちづくり」

稲葉佳子（1978年卒・ジョブプランニング・新宿区）

現在、外国人の多い新宿区大久保地域で、国際化する地域の現状を踏まえて、居住問題やコミュニティという視点から調査研究や実践活動をしている。日頃、仕事で高齢者などの住宅政策に関わっていたことから、地域の中の新しい住民“外国人”の居住問題に関心を持った。

約10年前に都市・建築関係の有志を集めて「まち居住研究会」を結成し、大久保を中心に自主研究で実態調査を行い、また外国人住



ご希望の方には、無料で郵送いたします。
FaxまたはEメールでご連絡ください。
Fax : 048-787-1936
E-mail : k3557@d8.dion.ne.jp

銀座の研究から まちづくりへの 新たな展開

岡本哲志（1981年卒・岡本哲志都市建築研究所・横浜市）

昨年（1999年）11月、銀座の将来像を描いた小冊子『まちづくりビジョン——銀座通りに柳が必要か』（銀座通り連合会発行）を銀座の方々と様々な分野からなる私たち研究者グループが供働して発行した。今年からは行政や多くの方々と巻き込み、十人十色の銀座に対する思いを汲み上げるなど、新たな展開へと始動しはじめた。

なぜこのようなパートナーシップが出来る



がったのか。1993年からはじまった研究者側の銀座研究は、その成果を銀座の方々と共有していただくために、数多くの研究発表と公開討論の場を銀座に持った。そのことがきっかけとなって、銀座の方々と私たち研究者グループとが、銀座の研究にもとづいて実際のまちづくりを提案する「銀座都市計画会議」を1998年1月に発足させ、議論を重ねて小冊子を発表したのである。

この会議の特徴は、調査研究、提案・計画、具体的なまちづくりへのアクションが、お互いに関係しあいながら三身一体となったまちづくりの活動となっていることにある。

「まちづくり憲章」 が銭湯の話題に

西河哲也（1986年卒・まちづくりグループ「谷中学校」運営人、都市・地域プランナー・台東区）

「都市計画」は、自分達とは異なる立場にいる人が携わり、そうではない市場でメシを喰っていかないと。20歳過ぎの学部生時代、ぼんやりとそんな風に考えていた。

数千年もの長い間、都市計画は「王様のための技術」といわれてきたからであろうか？「市民参加」という文字も教科書の中の言葉と思っていた。

つい最近、現在住んでいる東京都台東区谷中地区で「谷中・上野桜木地区まちづくり憲章」が制定され、その周知で回覧板が各戸に回ってきた。銭湯で谷中生まれの育ちの人に、「まちづくり憲章回ってきたよ。俺、町会長に聞いたんだよ。これで、都市計画道路拡幅



に反対できるのかって。精神規定なんだってね。」「そうなんです、幾ら内務省時代の計画でも継続性ってものがあるから、それに代わるルールを決めなくちゃダメなんです。具体的なルールを決めるためには、まず大き



左：路地の中の四軒長屋（自称：谷中西庵）
上：「まちづくり憲章」（今年度は回覧板当番）

な精神規定の憲章がないと。」「ふ～ん、頑張つてな。俺、応援しているから。」「と、広い湯船の縁に座って肩をポンとたたかれた。あの頃から約20年、少し時代は変わったのかもしれない。

大募集：次回特集は「MY HOUSE」

自分で設計した、自分で作った等工夫に富んだユニークな自宅を教えてください。文章400字と写真1点を下記までお送り下さい。締め切りは10月末。
この欄の連絡先：南風舎（小川格1966年卒）

tel:03-3294-9341 fax:03-3294-7386 E-mail:kak@nampoosha.co.jp

編集委員会 岡本 真（1970年卒）
小川 格（1966年卒）
安藤照代（1967年卒）
永瀬克己（1968年卒）
石黒豊明（1972年卒）
安井太郎（1981年卒）

マイ・ホームページ

あなたのホームページをご紹介します

HoseiWalkRally1999 ウォークラリー・レポートがインターネットで公開中！

昨年、安藤先生の建築概論では、ウォークラリーのレポートをホームページ化して提出するという課題が出されました。貴重な時間を割いて下さった先輩方への成果の報告と、法政大学に限らずそして建築学科に限らない、建築を学ぶあるいは学ぼうとしているすべての人々に対する情報の提供が課題の主旨で、昨年の全レポートがインターネットで閲覧できるようになりました。学生の率直な感想が読めます。ぜひご覧下さい。 <http://www.as.k.hosei.ac.jp/gairon/index.html>

M's「Home」page 住まい創りを考える

浦部 求 (旧姓：砂川) (1976年卒)

このホームページが、建築知識社の「Cad & CGマガジン」編集部の目にとまり、「Cad & CGマガジン」にいくつかの記事を書く機会を得ました。さらに、その記事がソフト開発会社「メガソフト」の目にとり、現在メガソフト社のソフト開発のアドバイスをを行っています。また、3D - CGソフト Light Wave3D の日本総代理店 D-Storm の目にとまったことから、昨年の Newtek World Tour '99 in Tokyo で「JW_Cadと Light Wave による建築プレゼンテーション」という題目でジョイントセミナーの講師を務める機会にも恵まれました。ここしばらくは忙しいため、ホームページのメンテナンスも滞りがちですが是非ご覧ください。現在までのアクセス数は約22,000です。



<http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/motom/>

ドイツおもちゃ輸入元 プッペンハウスへようこそ！

川崎圭子 (旧姓：乾) (1992年卒)

「法匠会報」の第32号にホームページの募集の記事を見つけ、ご連絡させていただきました。残念ながら現在は

建築とは、ほど遠い仕事をしていますが、少しでも多くの人に知ってほしいと思います。業種は、ドイツからのぬくもりのある木のおもちゃを中心とした輸入販売業です。実家の家業を継いでやっています。特典として「法政大学建築学科OB」と書いていただければ商品を1割引にて販売します。4年前に1級建築士も取ったのですが、今やペーパーと恥ずかしい限りですが、とにかくこの不況を乗り越えようと頑張っています。よろしく願いいたします。

ドイツ玩具輸入元：プッペンハウス
(株) 藤装飾

<http://www.interq.or.jp/world/puppen/>



台形集成材という木があります

趙 海光 (1972年卒・プラン21)

近頃、ホームページを見て仕事の依頼がくるらしい。というのを耳にし、パソコンに使われている私共の事務所でもさっそくホームページというものを作ることを決意した。さて、「決意した。」というものの、何からはじめていいものやら。とりあえず「ホームページの作り方」という本を片手に悪戦苦闘しているうちに何とかそれらしい物が出来た。そのページを開くとまず、ここ十年ほどばかりが取り組んでいる台形集成材という木の姿が現れる。そして、この木の説明。あとは、台形集成材の作り方をイラスト入りで説明・台形集成材で作った家を写真で紹介・台形集成材一座の紹介に続く。そしてなにより反応を見た人が



すぐにメールを送られるようにした。これで完璧な出来かな。名刺にもメールとホームページのアドレスを書き込み、これで準備オッケー。どんどん仕事がかかるかもと期待しつつ、開設してからもう半年、いまだに仕事の依頼はこない。噂によると、ホームページはすぐ更新し、見る度に何か新しい情報がなくては誰も見なくなるらしい。ガーン。あしたには新しい画面にしないで。と思っているがそれは、開設してから同じ画面を保持したままであった。

<http://www01.u-page.so-net.ne.jp/sf6/umihiko/homepage/>

私の逸品 愛用品紹介コーナー フィールドボックス

猪野 忍 (1966年卒・猪野建築設計)

気軽に、ふらっと出掛けるスケッチ行や街歩きには手放せなくなっているのが携帯水彩絵具箱「フィールドボックス」である。これは掌にすっぽり入るほどの小さな箱で、水彩スケッチに必要なものが実に巧妙に詰められている。イギリスの画材メーカー・ウィンザー・ニュートン社が十年ほど前に野外スケッチ用につくったもので、「フィールドボックス」はこの商品名である。ABS樹脂成型グレー色の箱を開けると透明水彩固形12色(季節や場所によっては好みの色に入れ替えることもできる) 三面のミキシング・パレット、水筒(平たい水筒の側面もパレットだ) 小さな筆やスポンジが美しく納まっているのがわかる。蓋が筆洗のカップにもなっていて傍らに取り付くようにデザインされ、親指を通して全体を支えるリングまで付いており、これはまさ



に「水彩のからくり箱」である。重さもバランスもちょうど良く、筆を動かしている間の至福のひとつときはもちろん、描き終わって全てを折り畳み、最後にカチッと音をたてて蓋を嵌め、元の小箱の形に戻してポケットにしるの瞬間すら心地好さを感じさせてくれるのである。

最近では、どうしたことが箱の色が黒が濃紺になってしまっているのが気になるが、カタチは同じで今でも手に入れることができる。風景を前に佇むときに身体の内側にまで描くことの楽しさを運んでくれる大切な道具である。

大募集 マイ・ホームページ

ホームページのほかあなたのコンピュータ・ライフに関するあらゆる情報をお寄せ下さい。順次紹介してゆきます。

私の逸品

あなたが自慢したいとおきの情報をお知らせ下さい。自薦他薦どちらも歓迎します。

この頁に関するお問い合わせは下記へ
luy-ishiguro@amy.hi-ho.ne.jp
石黒豊明 (1972年卒)

法匠女性ネットワーク

第5回「総会」開催のお知らせ

新緑の萌え出づる候となりました。会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、法匠女性ネットワーク第5回総会を右記のように開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

今回のパネルディスカッションは「街づくりのなかで考える」をテーマに、街づくり事業や研究に積極的に携わっている会員のお二人にお話を伺います。

私達個々のライフワークに照らし合わせ、「街」「地域」「生活環境」について考えてみるのも興味深いのではないのでしょうか？ぜひ皆様のご参加をお待ち申し上げます。（実行委員長1967年卒小川かよ子）

工学祭イベント参加

講演会「改正 建築基準法」

去る1999年11月20日、法匠女性ネットワーク工学祭参加イベントとして講演会「改正建築基準法」を小金井校舎仮設AV



室にて催しました。昨年は建築基準法が改正され各地で講演会なども行われましたが、気軽に質問できるような機会を持ちたいと考え、わが法政建築学科の卒業生であり建築法規のエキスパートでもある田中元雄氏に講演をお願い致しました。

- 1、日時 2000年5月13日(土)
PM 1:30~4:30
- 2、場所 法政大学工学部
視聴覚室 (南館7F)
- 3、プログラム PM 1:00 開場
PM 1:30 開会
活動報告
役員選出
行事予定
PM 2:00
パネルディスカッション
「街づくりのなかで考える」
パネラー 寺本 晰子(68年卒)
石川 和代(修士95年卒)
PM 4:30 閉会

まず改正の全体像を解説して頂き、その中でも設計者にとって最大の関心事とも言える「建築確認制度はどう変わるか」を中心に貴重な資料を基に説明して頂きました。

また「連担建築物設計制度」に関連して敷地の考え方も過去の建築訴訟を例に解説して頂きました。今回は実際に建築設計やまちづくり運動などに携わっているOBの方々の参加もあり具体的な質問が活発に行われ、講師からも貴重な意見を収穫できたとお言葉を頂き、充実した講演会となりました。

それにしても、建築確認の民間開放や連担建築物設計制度は一見設計の自由が増すような感を受けますが、実際細かく見ていくとなかなか曲者だな...。(1991年卒鈴木竜子)

大江宏先生の建築作品を体感する旅

国立能楽堂から始まって、九州の宇佐、四国の高松と続き、今回は横浜能楽堂と三溪記念館を訪ねました。

まだまだ春近からずと思えるような寒い2月19日桜木町駅に集合した10名は紅葉坂を登り能楽堂へ。瀟洒な能楽堂は舞台が旧染井能舞台で東京・根岸に野外能舞台としてあったものを再生したそうです。ほっとする館内では謡曲の発表会が行われていて、しばし謡曲に耳を傾けたり、舞台の仕組みや、装束の展示を興味深く見学しました。



能楽堂の眼下に広がる海に浮かぶレストランで昼食をとり、三溪園へ。そこは山や谷の自然の中に古建築があり、四季折々の花が楽しめ、それらと調和してゆったりとした三溪記念館がありました。

今回まで様々な大江宏作品に触れ、共通して感じたことは建物の中に建物を置くと、格子や柱が作り出す優雅さ、天井、壁、扉等の文様のすばらしさです。このような伝統美が次世代にも受け継がれて行くようにと思います。又、建物の見学と共に同窓生同志の和やかな交流もこのシリーズの素晴らしい面だと思っています。(1971年卒後藤真弓)

2000年 年間予定

- 5月3日(水).....加須市の鯉のぼりを見に行く会
5月13日(土) ...法匠女性ネットワーク「総会」
7月初め韓国旅行2泊3日位 担当 石川 弥栄子
9月初めフィンランド旅行 担当 熊坂 ひろ子
11月法政大学工学祭イベント参加
毎月1回定例会又は勉強会を行っております。
皆様のご参加をお待ち申し上げます。

身近かな本棚



『現代に生きる「境内空間」の再発見』
中山繁信著(1966年卒)
四六判 ■260頁 ■2400円
彰国社
都市の中に残る神社仏閣の境内、都市の中の緑地というだけでなく、日本固有の重要な都市空間として再評価する。



『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり』 歴史的景観の再生と商業政策
宗田好史著(1982年卒)
A5判 ■303頁 ■3200円
学芸出版社
衰退した都心部の活性化のため、行政、住民運動、研究者の発想の転換、法律の整備等多大な努力が行われた。



『イタリア小さなまちの底力』
陣内秀信著
四六判 ■278頁 ■1700円
講談社
30年に及ぶイタリア現地調査を通して、日常生活に踏み込んで、イタリアの魅力、本当の力の源はどこにあるのかをときあかず実に楽しい本。



『中国の都市空間を読む』
《世界史リブレット8》
高村雅彦著(1987年卒)
A5判 ■90頁 ■729円
山川出版社
典型的な王都北京、水郷都市蘇州など中国都市の特徴を現地調査に基づき解説。豊富な図版が小さな本にぎっしり。



『図説ドイツの都市造形史』
カール・グルーバー著
宮本正行訳(1973年卒)
B5判 ■192頁 ■3800円 西村書店
ドイツの都市景観の歴史を、中世と近世を中心にして図版151点で明快に解説している。今も息づく魅力的な歴史的都市景観のルーツを探る。



『沖縄八重山の研究』
武者英二・永瀬克己共著
B5判 ■406頁 ■26000円
相模書房
日本最南端の八重山諸島の建築・民俗・経済・言語等各分野の研究者の共同研究。遠見台の実測調査など初めて公表される貴重な資料も多い。

卒業設計公開講評会

2000年2月5日(土)小金井キャンパス工学部講堂において、卒業設計の公開講評会が行われた。今年度は、他大学からの聴講者も多く広い会場が埋まった。講評・審査に建築学科教員、そして特別審査員に活躍している若手建築家の青木淳氏(青木淳建築設計事務所) 塚本由晴氏(建築家、東京工業大学) 前年度講評会の特別審査員であった北山恒氏(ワークショップ・横浜国立大学)を招いている。



講評の対象となったのは、164人の卒業設計のなかから選ばれた16作品、発表14作品である。鋭い質問に対応すべく奮闘していた。

講評会の後は、学生ラウンジに場所を移し、レセプションが開催された。先生方、同窓、他大学を含む学年をこえた学生が集まった。鬼木建築同窓会長による乾杯の音頭で和やかな懇談が始まり、会の途中で受賞作品が発表された。

特別審査員賞他の授賞は次の学生である。

青木 淳賞：剣持祐介、北山 恒賞：石原篤、塚本由晴賞：高嶋夕夏、卒業設計賞田中洋介、川上早千絵、志田祐一、石原篤、山本真弓、高嶋夕夏、山本浩孝



今回の講評会でも、昨年と同様に企画・運営に大学院生が積極的に参加している。会は同窓会や協賛企業などによって支えられている。

卒業設計展等代表決まる

卒業設計審査と卒業設計講評会を経て、次の学生が学外で行われる各種展覧会や出版物掲載の法政大学代表者に決定した。

日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」：山本浩孝(大江)、近代建築社『卒業制作'2000』：志田祐一(吉田)、JIA主催「東京都学生卒業設計コンクール'99」：石原 篤、山本真弓(渡辺)、レモン画翠展「第22回学生建築設計優秀作品展」(2000.5.18～23、場所：御茶の水スクエア)：石原 篤(渡辺)、レモン画翠「第四回学生CAD教育の現場展」(場所・日程同上)：志田祐一(吉田)、毎日新聞DAS賞：自由応募。

建築学科学位授与式：晴れやかに

2000年度建築学科卒業生は、学士164名、修士39名、博士1名、計204名が以上の学位を授与された。卒業・修了おめでとう。そして建築学科同窓会へようこそ。卒業式は日本武道館、学位記交付は小金井キャンパスで行われました。学位記の交付は、建築学科主任の坪井善隆教授、大学院は大学院主任の大江新教授から一人づつ手渡された。

工学部同窓会からは、成績優秀者として褒賞が総長他名で次の2名に与えられ、鬼木建築同窓会長より手渡された。



川上早千絵(後藤) 島田圭一郎(川口) 同日午後3時に卒業生主催(幹事：坪井ゼミ)の建築設計製図室401、402においてお世話になった先生方・同窓会役員を招いて謝恩会が開催された。先生方や同窓会長からお祝と激励の言葉があり、終始和やかで話が尽きぬほどであった。

アートによる地域おこし
越

新潟県の十日市町を中心とした6市町村がアートを媒介に広域的な地域おこしを進める計画で、3年に一度開かれる世界的イベント「大地の芸術祭」に建築の法政大学大学院生が公募作品に選定された。小林司郎君等(渡辺研究室)のグループ。世界の第一線級138人の招待作家と競うことになる。会期は7月になる予定で現在実物制作にあたり募金中。御協力を。



続々音報：院生グループが快挙

タタキロン国際デザインコンペに2等：中樞哲史、熊崎敦史、増見収太、入選：岡田周也+大庭晋君。日本建築学会主催「住み続けられる"まち"の再生」に2等の優秀賞が中樞哲史、熊崎敦史、増見収太、安食公治、岡本欣士、白川在、西牟田奈々さんの院生グループに与えられた。連続する快挙に驚嘆。

「建築設計製図等総合講評会」
7月15日(土)開催予定

2000年春：建築学科新入生入学

4月3日(月)日本武道館において2000年度の入学式が行われた。咲き始めた桜に祝福され建築学科164名、大学院(建築)に51名、計215名の新入生が入学した。入学おめでとう。

そして建築ウォークラリーで会いましょう。

新任非常勤講師に

建築家 マーク・ダイサム氏他

建築入門 川成 洋氏(工学部教授) 横山泰子氏(工学部 助教授) **建築設計製図(4)** 渡辺誠氏(渡辺誠アーキテクトオフィス) **建築設計製図(3)** マーク・ダイサム氏(クライン・ダイサム・アーキテクト) **建築設計製図(2)** 前田紀貞氏(前田紀貞アトリエ) **建築法規** 田中元雄氏(建築技術教育普及センター) **図学A** 黒田泰介氏(関東学院大学建築学科専任講師)、**図学B** 柴田晃宏氏(IKMO代表) **空間構成法(2)** 竹内裕二氏(竹内裕二建築設計事務所)

大学院関係 **建築CAD特論** 佐藤健司氏(磯崎新アトリエ) **住宅計画特論** 石川弥栄子氏(高齢者住宅財団) 二瓶正史氏(アーバンセクション代表) **都市計画特論** 西河哲也氏(まちづくりグループ「谷中学校」運営人)

桜咲く小金井キャンパス西館



法政大学大学院客員教授

長谷川逸子氏 日本芸術院賞受賞

昨年度建築設計製図(4)、大学院建築設計担当の長谷川先生が2000年度日本芸術院賞を受賞した。この賞の建築関係の女性では初。

夏休みに学ぶ「建築実務実習」
同窓生の協力を！

大学は7月28日から9月19日まで夏休みとなるが、休みも有意義に過ごそうと「建築実務実習」を望む学生(3年生)が急激に増えてきました。数年前までは20名前後であったものが昨年度の登録者は100名を突破しました。同窓生の協力なくしては多くの学生の希望に応えることはできません。夏休みに職場を体験させて下さる方、御一報いただければ幸いです。地域、職種、職場名、協力者名、卒業期リストを作成し、学生に提示したいと思います。

FAX 042-387-6125 担当：渡辺、阿部、永瀬